

R7 進路指導の方針

●3年間を見通した計画的な進路指導

- ①授業と学習・部活動・行事を3本柱とする文武両道の教育方針の下、高い志をもって、社会に貢献する気概に満ち、国内あるいは国際的に様々な分野で活躍するリーダーとなる人材を育成する
- ②生徒一人ひとりが興味・関心・適性・意欲を大切にしながら自分の将来を真剣に考え、国公立大学等高い進路目標を立て、実現できるような3年間を見通した計画的な進路指導を行う
- ③生徒の成長に応じて「進路HR」「進路集会」「進路講演会」等の行事により、3年間を見通した計画的な進路指導を行う。また、高い進路目標の設定・維持・実現のため、定期的に進路望調査を実施する
- ④志望校決定・大学学部研究のため、夏のオープンキャンパスおよび秋の京大キャンパスガイド、阪大ツアーなどへの積極的な参加を促す。

●授業・講習・外部模試の充実による学力育成

- ① 生徒の進路目標を実現するため、入試に対応できる質の高い授業、授業中心の「予習→授業→復習」の自学自習力の向上により学力育成を図る。
- ② 校内・外部模試を活用して学力測定、学習課題の発見とその補強、進路意識向上を図る。また、模擬試験後の振り返りを行い、自らの学習を見直すきっかけにする。
- ③ 授業に加えて、進路指導部が中心となって希望者講習を企画・実施し、学力の向上を図る
- ④ 1, 2 年時に学習した内容を 1, 2 年生の間に定着させる取り組みを行う。(生野ベーシック) また、生野ベーシックテストに向けたスモールステップとしてのプチベーシックテストを年間3回行う。
- ⑤ 低学年時に能動的な学習習慣を確立させるため、学習時間調査(通称:I plus I)を日常的に行う。

●学年・担任と協力して生徒・保護者に適切な進路指導を実施

- ① 進路部・各学年(学年主任、担任、進路 HR 担当者)・生徒・保護者と綿密に連絡・協力しながら進路指導を行う。また、進路集会を定期的に行い、高いモチベーションを保てるような指導を行う。
- ② 担任や進路指導部は面談・懇談を適宜実施して生徒一人ひとりの個性や意欲を大切にしたいきめ細かい進路指導を行う。必要に応じて進路指導室でも生徒・保護者の進路相談に応積極的に対応する
- ③ 大学案内や過去の入試問題集・模擬試験問題を配架し、生徒の進路目標実現に向けた自学自習をバックアップする。
- ④ 各学年の進路保護者会で進路指導方針や進路状況、入試制度や学費のことなど、進路関係の必要な情報・データを保護者に提供する。あわせて学校ホームページを通して進路状況や進路指導計画を案内する。

●教員に対する進路情報提供や研修の実施

- ① 確かなデータに基づく進路指導を行うため、大学入試結果、外部模試成績、実力考査成績、学校成績、進路希望調査、学習時間調査等をデータベース化し、精度の高いデータやノウハウを教員に提供する。
- ② 本校での担任・進路指導経験の少ない教員の進路指導に関する知識・技術の向上を図るため、校内での進路研修会や進路検討会を積極的に開催する。校外における進路研修会も積極的に紹介する。
- ③ 進路指導の経験豊富な教員からノウハウを学ぶことで、新戦力の育成を図る。
- ④ 他校視察などを通じて、他の学校の実践を学び、本校の進路指導に活かす。